

本時のねらい

・「半分」の意味を理解し、さまざまなものを半分の大きさに分けることができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・具体物として準備できないものをタブレットを活用することで、「半分」をイメージさせることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・電子黒板 ・Sky Menu Class の発表ノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自立活動 (5分) ・ことばのクロスワード ・折り紙で作品作り ○復習 ・タブレットを使って、1000をこえる数を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千の位、百の位、十の位、一の位とそれぞれカードを重ねて視覚化することで位取りをわかりやすくする。
展開 (25分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> いろいろなものをふたりでわけよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なものを、同じ大きさに2つに分ける方法を考える。 折り紙、画用紙 (長方形、三角形、丸) 紙テープ、おはじき、カード、水…具体物を準備 ケーキ、ピザ、カステラ、正方形、長方形、三角形、円…タブレットを活用 ○2つに分けたものの大きさ、形、量などどうなっているか確認する。 ○「二等分」、「二分の一」という言葉を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物以外の、「半分」にすることができないものをタブレット操作により「半分」にする。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○今日のふりかえり 	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



1000をこえる数をつくっている場面



「半分」にしている場面



「二等分」にしている場面

児童生徒の反応や変容

具体物を半分にする活動を意欲的に行っていた児童が、実際に半分できないものに対してはすぐに、困り感を示した。その時にも、タブレットを用いてデータ上で操作することで、視覚的に「半分」の感覚を養うことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

具体物の操作とタブレット上の操作を組み合わせることで、実際に操作することのよさと、実際に半分できないものを半分にしたり、何度も繰り返し試行錯誤しながら取り組むことができるタブレットのよさを効果的に組み合わせながら学習を進めることができた。